

介護現場で 『歩行アシスト』を 活用していくには

～介護職員への歩行アシスト浸透を目指して～

東京都西多摩郡瑞穂町

医療法人社団幹人会

介護老人保健施設 菜の花

発表者：介護福祉士 岸野 憲二郎

協力・指導：理学療法士 高梨 友博

ロボット導入プロジェクトチーム統括：大塚 恵利子

施設長・医師：長瀬敬

法人統括常務理事：玉木 千鶴

理事長：玉木 一弘

【演題発表に関連し、開示すべき利益相反（COI）関係にある企業などはありません。】

ロボット導入について

2年前より介護ロボットを導入し、
利用者様の自立支援と介護負担軽減を図る

今回 移動支援機器：歩行アシスト導入で...

利用者様の移動能力向上



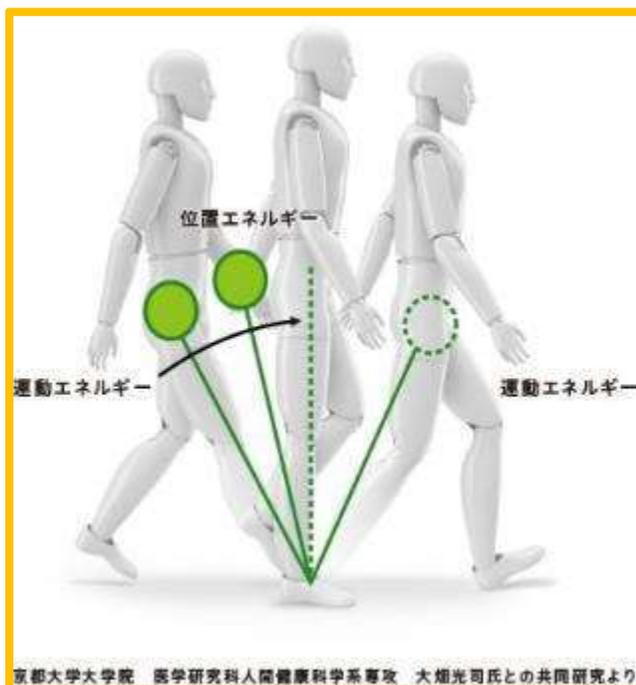
介護負担軽減を期待



有効に活用するためには？

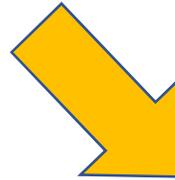
HONDA歩行アシストとは？

〈倒立振り子モデル〉



※HONDA歩行アシストHPより

歩行アシストの特徴



自立支援
在宅復帰

歩行アシスト導入の流れ

1. 目的を明確にする

移動能力の向上



介護の負担軽減
DOWN



2. 職員への周知



3. 利用者様への周知



導入の際の現場の反応



歩行アシストってどんなもの？

使うのが面倒そう

普通に介護した方が楽なんじゃ？

思ったより使い方はシンプル

画期的で面白そう

楽しく生活リハビリができそう



職員への周知の実際

① 歩行アシスト導入のプロジェクトチームを結成
掲示板に掲載し、施設職員に対して周知

② 歩行アシストのポスターやパンフレット、
紹介動画を見てもらう



利用者様への周知の実際

①歩行能力の向上を望まれている方に紹介

利用者様へは...

パンフレットや動画、
実物での説明及び試着

ご家族様へは...

電話での説明、見学
動画での報告等

②周囲の方々への紹介

フロアの廊下に
活動内容を掲示

施設ホームページでの
活動報告

まずは体験！効果を見よう！

より多くの職員への周知・浸透
をめざすためには・・・



実際の効果や利便性を
みてもらうのが一番！

効果検証のための事例

対象

歩行速度低下や不安定性のある利用者様2名に使用。

事例①脳出血後左不全麻痺を呈した70代女性

事例②左大腿骨頸部骨折Ope後の80代男性

方法

理学療法士による身体機能評価⇒アシスト設定値の決定。

介護福祉士による歩行アシストの装着⇒浴室まで歩行誘導を行い、歩行に要した時間を測定。（リハビリ時には随時理学療法士が再評価及び再設定を実施）



歩行アシストを導入した結果

利用者様の歩行速度アップ



誘導時間の短縮



介護効率の改善

歩行アシストなしでも歩行速度がアップ！

より安定した姿勢での歩行が可能に

職員間での話し合いが増加！



有効活用できるようになった



まとめ

看護師

医師

家族

多職種連携

ケアマネ



介護士

リハビリ

運営者

ご清聴ありがとうございました

